

平成 10 年 10 月 13 日  
気 象 庁

## 岩手山の火山活動に関する 火山噴火予知連絡会統一見解

岩手山では、1995年9月から山頂直下でやや深い微動が始まったが、本年2月頃から岩手山の西側を中心に深さ5 km以内の浅い地震が多発し、南北方向に火山全体にわたる地殻の伸長が観測されるようになった。地震活動は震源域を西に広げながら次第に活発化し、6月中旬から7月上旬にかけては、地震の日回数が100回前後まで増加し、浅部で振幅の大きな火山性微動も観測されるようになった。地震活動の活発化に対応して、地殻の伸長と隆起の中心は次第に浅くなったものと見積もられる。火山ガスの組成にも、マグマからの寄与の増加が認められる。これらの活動は、マグマの浅部への移動によるものと理解されるが、地表付近で地温や噴気の状態に顕著な変化は認められていない。

7月中旬以降、西側の地震の頻度は減少に転じたが、3月と同程度のレベルにあり、また鬼ヶ城近傍や山頂直下の地震活動はやや活発化の傾向を示している。地殻変動も部分的には鈍化の傾向を示しながらも継続している。9月3日には岩手山南西でマグニチュード6.1の逆断層型の地震が発生したが、この地震による火山活動の顕著な変化は認められていない。

このように、岩手山の火山活動は現在も継続しており、一連の活動が地下深部から始まり、広域に及ぶことから、火山活動が長期化する可能性もある。今後とも活動の推移を注意深く見守る必要がある。